

**鴨川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 第2回会議
会議録**

1 日 時 平成29年10月5日(木) 午前10時00分から11時30分まで

2 場 所 市役所本庁舎7階会議室

3 出席者

(1) 委員

No.	氏 名	所属・職名	備 考
1	鎌田 薫	安房農業協同組合 常務理事	
2	田原 智之	鴨川市漁業協同組合 参事	
3	島田 誠一	鴨川市商工会 副会長	委員長
4	鈴木 健史	一般社団法人鴨川市観光協会 会長	
5	金井 重人	公益社団法人安房医師会 (東条メンタルホスピタル)	
6	内山 達也	学校法人城西大学城西国際大学 観光学部 副学部長	副委員長
7	恵美須 文枝	学校法人鉄蕉館亀田医療大学 副学長	
8	鈴木 親彦	鴨川市金融団 幹事 (館山信用金庫鴨川支店長)	
9	高野 孟	株式会社インサイダー 代表取締役	

(順不同、敬称略)

※欠席

No.	氏 名	所属・職名	備 考
1	角田 憲一	ヤスダファインテ労働組合 執行委員長	

(順不同、敬称略)

(2) 市

No.	所属・職氏名	備 考
1	市 長 亀田 郁夫	
2	参 事 岩田 知也	

3	総務課 課長 松本 憲好	
4	財政課 課長 増田 勝己	
5	子ども支援課 課長 羽田 幸弘	
6	農水商工課 課長 石井 利彦	
7	観光課 課長 山口 昌宏	
8	企画政策課 課長 平川 潔	
9	企画政策課 主幹 大久保 孝雄	事務局
10	企画政策課 課長補佐 石井 宏子	〃
11	企画政策課 地域戦略係 係長 滝口 俊孝	〃
12	企画政策課 地域戦略係 副主査 浦邊 彰紀	〃
13	企画政策課 地域戦略係 主事 小粒 将一	〃

(3) 傍聴者

1名

4 資料

- ・次第
- ・委員名簿
- ・席次表
- ・出席者名簿
- ・資料1 総合戦略における基本目標及び重要業績評価指標（KPI）の状況について
- ・資料1（別冊） 地域経済の状況について
- ・資料2 総合戦略の見直しの方向について
- ・鴨川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 第1回会議会議録

5 会議内容

(1) 開会（午前10時00分）

(2) 市長あいさつ

（要旨）

7月末に第1回会議を開催して以来、早2か月が経過したが、この間、9月定例市議会において、多目的施設建設の見送りと、市立国保病院の整備に向けた取組みについて可決していただいた。そのほか、天津小湊地区における学校再編についても、その実施に向けて地元の方々などへの説明を始めている。また、既存事業の見直しと検証を市民目線で行うため、行政事業レビュー、いわゆる事業仕分けを、来る11月11・12日の2日間、実施する。

こうした取組みを進める上では、市が責任を持って課題の優先順位を決め、市民の皆様とともに市独自の成長戦略をたて、実行し、活性化の道筋をつけることが重要と考えている。

この会議についても、総合戦略全般にわたる検証、調整を行い、より効果の高いものへと改善するための一連のプロセスとして、いわゆるPDCAサイクルを実践するために設置したものである。

地方創生を官民一体となって推進していくため、皆様には、その一端を担う当事者の一人として、主体的かつ建設的なご意見をいただくよう、願います。

(3) 委員長あいさつ

(要旨)

前回の会議では、会議の運営方法など基本的な事項を決定するとともに、総合戦略に位置付けられた事業の実績や計画などについて審議した。

本日の会議では、総合戦略の基本目標など数値目標について改めて検証を行い、総合戦略の見直しの方向について審議を行う。

皆様には、是非、主体的かつ建設的なご意見をいただくとともに、会議の円滑な運営にご協力をいただきたい。

(4) 議 題

鴨川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議設置要綱第5条第2項の規定に基づき会議が成立したことについて事務局から報告した後、同条第1項の規定に基づき、島田委員長が議長となって議事を進行した。

冒頭、議長から、名簿順に 鈴木 健史 委員及び 金井 重人 委員を会議録署名委員として指名した後、議事に入った。

議題1 鴨川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について

○総合戦略における基本目標及重要業績評価指標（KPI）の状況について

資料1（別冊を含む。）により事務局から説明し、資料のとおり承認した。

質疑等は次のとおり。

《鈴木(健)委員》

観光入込客数に関しては、観光の形態が変化していることを考慮しなければならない。かつては団体客が大半であったが、現在は個人客が増えており、一度に移動する人数が減

っている。旅館等の売上がそれほど減っていないことを考えても、入込客数だけで見るのは適当ではないのではないか。

○総合戦略の見直しの方向について

資料2により事務局から説明し、資料のとおり決定した。

コメント及び質疑等は次のとおり。

・「しごとづくり」について

(空き店舗等の活用)

《恵美須委員》

学生に「鴨川に何が欲しい？」と聞くと、ユニクロとスターバックスが欲しいと答える。空き家、空き店舗を上手く活用する方法を考えてみてはどうか。

《平川課長》

企業誘致の観点から、空き家、空き店舗の活用を実施していく予定である。ユニクロ等については、店舗の規格等の問題もあり、既存の空き店舗等ではハードルが高いことが予想されるが、今後いろいろな可能性を探っていく。

(有害鳥獣対策の強化)

《内山委員》

山間部では住宅地周辺にも有害鳥獣が現れる。農地では電気柵の設置に補助が出るということだが、その他の地域では設置できないのか。太海でもイノシシが出現し、学生たちから「歩いていると怖い」という話を聞く。農地以外での対策に関して具体案があれば教えていただきたい。

《石井課長》

耕作している農地では、国の補助により電気柵の設置が可能となるが、農地以外では設置ができない。地元の猟友会に依頼し、実際に現地で駆除を行ったり、ワナを仕掛けたりすることで対応している状況である。

《市長》

農地以外の被害の状況は既に承知している。国、県に要望している状況であり、それについては、別途お知らせする予定である。

《鎌田委員》

有害鳥獣が農作物を食い荒らすといった被害に加え、ダニ・ヒルの被害も営農意欲を減退させる大きな要因となっているので、そちらも考慮していただきたい。

《石井課長》

直接被害だけでなく、ダニ・ヒルによる生活被害への対策についても国に要望している状況である。

《高野委員》

駆除はあくまで対症療法でしかなく、森林の整備が重要である。炭焼きや伐採をしない場所が増えたのが根本的な原因であり、駆除のみに重点を置くと果てしがないことになり、

長期的な戦略が立たなくなるのではないか。

《石井課長》

予算に限りがあるが、森林整備計画に基づき間伐や伐採を行っている状況である。

《鈴木(健)委員》

観光の面から考えても、山の幸としてジビエはとても貴重だと感じている。イノシシやシカをジビエとして活用することには賛成だが、そのために何が具体的に必要なのかを考えなければならない。美味しいイノシシの肉が高い理由は、それほど多く出回っていないことと、血抜きの作業が非常に大変なことが挙げられる。

処理施設や具体的な処理方法についても検討してみてもどうか。

《市長》

国の政策として、年間 1,000 頭以上の処理が可能な施設を設置するモデル地域を募集している。鴨川市のみではなく他の自治体にも声をかけ、協力して手を挙げることも考えている。

捕獲の方法に関しても、鉄砲によって仕留めるのか、ワナを仕掛ける方が良いのか、専門家にも話を聞き、対策を講じていく予定である。

《高野委員》

エゾシカの駆除問題に取り組んでいる方に話を伺ったことがあるが、イギリスでは畑を柵で囲ってしまうのではなく、山全体を柵で囲い、その中で頭数調査をしているようである。

ハンターのマナーについても、イギリスの場合、内臓を撃ってしまうと売り物にならないため、喉を撃って一発で仕留め、その場ですぐに血抜きをしているようである。その後、各所にある簡易な冷蔵施設に保管し、回収するというシステムになっている。ジビエを活用するならば、そうしたシステムづくりが必要となるであろう。

（職業相談と移住施策との連携強化）

《鈴木(健)委員》

仕事はあるが、人がいないのが各産業で問題となっている。ユニクロが難民の雇用に力を入れているようであり、弊社もそれに倣って計画をしている。先日、東京にある難民事業本部で伺ったところによると、雇用や安定した生活を求めて毎年難民の方が来ているようである。まちを挙げて受け入れるというのも一つの策なのではないか。

《平川課長》

人口や労働力が減少している中で、外国人の受入れは大きなテーマだと感じている。現在、鴨川市には多くの外国人が暮らしている。その中で進んでいるのは漁業関係の加工業や土木業へ研修生という形で来ている方。また最近では、介護や医療関係も受入れを検討しているようである。難民の方の受入れに関しては、今後検討させていただきたい。

・「ひとのながれ」について

《恵美須委員》

身近な人に話を聞くと、濃溝の滝には人は来るが、その先（鴨川方面）へは人が来ない。

鴨川有料道路の料金所が関所になっているという意見があるのだが、その点についてどうお考えか。

《山口課長》

濃溝の滝に多くの観光客が訪れている事実は把握している。コースプランの提供など、市域を超えたPRを始めた段階である。

《平川課長》

鴨川有料道路に関しては平成31年4月20日まで料金徴収の予定である。

《内山委員》

濃溝の滝を訪れる観光客について、実態調査のようなことはしているのか。

《山口課長》

実態調査はしていない。主観ではあるが、都心部から来ている方が多い印象がある。

《恵美須委員》

濃溝の滝のポスターは都内の駅のあらゆる場所に貼られているので、それとあわせて鴨川の観光資源も宣伝することを考えてみてはどうか。

《山口課長》

鴨川市単独で行うのではなく、安房3市1町で房総の魅力を伝える南房総観光連盟といった組織があり、房総の各地域の魅力をPRするパンフレットを作成している。

JRの駅のポスター掲示については、「棚田の夜祭り」に関しては千葉支社管内で掲示をしている状況である。より人目に付く場所で掲示ができるよう努力していく。

・「結婚・出産・子育て」について

《恵美須委員》

妊娠に対する特別な支援は、個人的には必要ないと感じている。過度の労働によるストレスからホルモンが機能しないことが不妊の原因となっていることが多いため、地域で子どもを産んで育てやすい環境づくりをするしかないと思われる。公園がなく、子どもを自由に遊ばせられないという声をよく聞くので、公園の整備を検討してもらいたい。

《羽田課長》

多目的施設整備の見送りに伴い、施設予定地を子どもたちがのびのび遊ぶことのできる芝生広場として整備する予定である。前原海岸にも公園はあるが、夏場は日差しが厳しいことや、トンビがいる等、小さな子どもが安心して過ごせない現状を踏まえ、整備を検討していく。

《金井委員》

前原海岸の公園については車の通りが激しく、敷地もそれほど広くないので、親としては目が離せない環境にある。一戦場公園は、敷地は広いが遊具が少ない。このような現状について、どうお考えか。

《羽田課長》

即答することはできないが、今後も公園の整備を検討していく。

《金井委員》

亀田総合病院には比較的若い人が多く、そこで子どもを育てている方に話を聞くと、

子どもを大学へ行かせるための教育環境が整っていないという話を聞く。そのため、父親は亀田病院で働いているが、子どもは小学校や中学校で受験をし、母子は都心へ住んでいるといったケースもある。

《羽田課長》

そういった実情は把握している。民間ベースではあるが、教育施設の付近にスポーツを含めた塾を設立する計画等について伺っている。

・「地域づくり」について

《高野委員》

大山に住んでいるとコミュニティバスの需要は十分あるように感じている。一部で長狭街道を通る高速バスの運行が求められているが、その背景には子どもを東京へ出させないためにはどうしたらよいかという切実な問題意識がある。公共交通についての具体的な検討事項を伺いたい。

《平川課長》

JRや民間事業者の路線バス、市で運行しているコミュニティバスの利用率はそれほど高くなく、民間のバス路線は採算がとれなくなってきた。また、市域が広いため、公共交通の空白地帯も存在する。利用を促進するために市民向けのアンケートを実施し、意向等を確認する予定である。

《惠美須委員》

通学・通院・観光の3つが公共交通を考える上で重要なものになっていくと感ずるので、一体化した調査を検討してみてはどうか。

《平川課長》

現在、市外から来ているバスは、駅を経由して亀田総合病院へ向かう経路となっており、そのような経路でなければ利用が少ないという現実がある。現在の利用状況を優先すると通学には合わなくなってしまうという問題もあり、その点の調整は再度検討していく予定である。

《鈴木(健)委員》

前市長時代からの課題であったと思われるが、コミュニティバスのデマンド方式への移行等、仕組み自体にメスを入れることはできないのか。

《平川課長》

今回の公共交通の見直しのなかでコミュニティバスの運行方法についても再度検証する予定である。コミュニティバスの収支は、運行委託料として約3,300万円かかっている一方、料金収入は約650万円。国からの補助金がおおむね1,000万円前後で、約1,600万円の赤字となっている。一便当たりの平均利用者数は3.3人～3.4人という状況であり、鉄道とのダイヤ調整や一部区間のデマンド運行など、経費削減のための取組みは行っているが、伸び悩んでいる状況である。路線の見直し等も含めて再度検討していく予定である。

議題2 その他

事務局から、次回会議の日程については、調整の上で改めて連絡することを説明した。

(6) 閉会 (午前 11 時 30 分)

(以上)

鴨川市附属機関等の会議の公開に関する実施要領第7条第3項の規定により、鴨川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議第2回会議における会議録の内容について確認します。

平成29年11月7日

鈴木 健史

金井 重人